

A Study of the Model Teacher Demanded in Next Age

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-11-22 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 山崎, 淳 メールアドレス: 所属:
URL	https://mu.repo.nii.ac.jp/records/663

これからの時代に求められる教師像についての一考察

A Study of the Model Teacher Demanded in Next Age

山 崎 淳^{*}
YAMAZAKI Atsushi

1 研究の目的

これからの学校教育の指針となる新しい学習指導要領等が、平成29年3月31日に告示された。その基本となる考え方は、中央教育審議会答申（平成28年12月21日）に示されている。この答申には、「学校教育を通じて育てたい姿と『生きる力』の理念の具体化」として、

教育基本法が目指す教育の目的や目標に基づき、子供たちの現状や課題を踏まえつつ、2030年とその先の社会の在り方を見据えながら、学校教育を通じて子供たちに育てたい姿を描くとすれば、以下のような在り方が考えられる。

社会的・職業的に自立した人間として、我が国や郷土が育んできた伝統や文化に立脚した広い視野を持ち、理想を実現しようとする高い志や意欲を持って、主体的に学びに向かい、必要な情報を判断し、自ら知識を深めて個性や能力を伸ばし、人生を切り拓いていくことができること。

対話や議論を通じて、自分の考えを根拠とともに伝えるとともに、他者の考えを理解し、自分の考えを深めたり、集団としての考えを発展させたり、他者への思いやりを持って多様な人々と協働したりしていくことができること。

変化の激しい社会の中でも、感性を豊かに働かせながら、よりよい人生や社会の在り方を考え、試行錯誤しながら問題を発見・解決し、新たな価値を創造していくとともに、新たな問題の発見・解決につなげていくことができること。

と述べられている。

つまり、これからの教師には、このような子供たちを育てていく力が求められている。

一方で、教師に求められている資質・能力については、教育職員養成審議会第1次答申（平成9年）以来、新しいものは示されていない。これからの時代にどのような資質・能力が求められているのかを明らかにしながら、求められる教師像について探っていきたい。

2 これまでの考え方

前述したように、教育職員養成審議会第1次答申（平成9年）では、教員に求められる資質・

^{*} 武蔵野大学教育学部

能力として、次のような事柄が挙げられている。

(1) いつの時代も求められる資質・能力

- ・教育者としての使命感
- ・人間の成長・発達についての深い理解
- ・幼児・児童・生徒に対する教育的愛情
- ・教科等に関する専門的知識
- ・広く豊かな教養
- ・以上を基盤とした実践的指導力

(2) 今後特に求められる具体的資質・能力

- 地球的視野に立って行動するための資質・能力
 - ・地球・国家・人間等に関する適切な理解
 - ・豊かな人間性
 - ・国際社会で必要とされる基本的資質・能力
- 変化の時代を生きる社会人に求められる資質・能力
 - ・課題解決能力等に関わるもの
 - ・人間関係に関わるもの
 - ・社会の変化に適応するための知識及び技能
- 教員の職務から必然的に求められる資質・能力
 - ・幼児・児童・生徒や教育の在り方に関する適切な理解
 - ・教職に対する愛着、誇り、一体感
 - ・教科指導、生徒指導等のための知識、技能及び態度

そして、この考え方の基になったものとして、昭和61年5月の文部大臣から教育職員養成審議会に対する諮問「教員の資質能力の向上方策等について」と昭和62年12月の教育職員養成審議会答申「教員の資質能力の向上方策等について」が想起される。すなわち、諮問文では「教員に対して国民が望む資質能力としては、例えば児童・生徒に対する教育的愛情、広く豊かな教養と人間性、教育者としての使命感、人間の成長・発展についての深い理解と教科に関する専門的知識に裏付けられた実践的指導力等」が挙げられている。ここで挙げられている6点は、平成9年の教育職員養成審議会第1次答申の「いつの時代も求められる資質・能力」の6点と重なっている。

教育職員養成審議会は、平成11年12月10日に第3次答申「養成と採用・研修との連携の円滑化について」を公表してその役割を終えているが、第3次答申の中でも、教員に求められる資質・能力については、前述の第1次答申の内容を踏襲している。その後、教員に求められる資質・能力や教員養成について議論する場合は中央教育審議会に移されたが、例えば、平成16年10月20日に文部科学大臣から諮問された「今後の教員養成・免許制度の在り方について」の諮問理由で、教員の果たす役割の重要性については述べられているが、求められる資質・能力についてはふれ

られていない。また、この諮問に対する答申（平成18年7月11日）及びその後の教員の資質・能力に関連する2回の答申（平成24年8月28日と平成27年12月21日）でも、教員に求められる資質・能力の具体的な内容については述べられていない。

さらには、教育再生実行会議においても、平成27年5月14日の第七次提言において、「これからの時代を生きる人たちに必要とされる資質・能力」の記述はあるが、求められる教師像についてはふれられていない。

3 これからの時代に求められる資質・能力

これからの時代に求められる資質・能力については、世界各国で研究が進められており、例えば、OECDやEUやニュージーランドにおける「キー・コンピテンシー」、イギリスにおける「キー・スキルと思考スキル」、オーストラリアにおける「汎用的能力」、21世紀型スキルプロジェクトが提案した「21世紀型スキル」等、様々なものがある。本稿では、我が国の国立教育政策研究所が取りまとめた「21世紀に求められる資質・能力」をベースに考えていきたい。

まず、資質・能力とは何かということであるが、資質とは、（子供が）学んでいくために持っている潜在的な力であり、能力とは、資質を使って実際に学ぶことで、（子供）自らが育て、自覚的に活用できるようになった力と定義されている。資質・能力とは、学び始めには学習に使う手段、学び終わりでは学習内容も含み込んだ次の学習のための手段であり、方法知でありつつ、内容知も含み込んだものとしている。

21世紀に求められる資質・能力として、「思考力」を中核とし、それを支える「基礎力」と思考力の使い方を方向付ける「実践力」の三層構造でとらえることができる。「基礎力」は、言語スキル、数量スキル、情報スキル等の要素によって構成される。「思考力」は、問題解決・発見力、論理的・批判的・創造的思考、メタ認知・学び方の学び等の要素によって構成される。「実践力」は、自律的活動、関係性、持続可能な社会づくり等の要素によって構成される。

そして、21世紀の資質・能力教育は、子供が考えなくてもすむような分かりやすい説明を教員が与える授業ではなく、子供自らが考えたい、あるいは考えざるを得ないような課題と、考えるための材料（ここに講義も含まれる）などの提供を通して子供自らが答えや説明を創り上げる授業を目指すべきとしている。したがって、教員に求められる資質・能力の一つとして、「子供自らが考えたい、あるいは考えざるを得ないような課題と、考えるための材料を提供することのできる力」を挙げることができる。

4 今日の教育課題

将来、人工知能（AI）が授業を行うようになるのではないかという報道が、先般あったように、科学技術の進展が著しい。また、現在、社会は少子高齢化、グローバル化等激しい変化を見せており、国際情勢も安定しているとは言えない状況である。このような社会状況を受け、学校教育に寄せられる期待、求められる成果も多様化している。例えば、平成12年度から小学校で始まった（その後、中学校、高等学校に順次拡大）「総合的な学習の時間」では、情報教育、環境教育、

国際理解教育、健康・福祉教育を取り上げることが例示されていた。当時は耳慣れないものもあり、学校では混乱や不安も見られたが、今では、これらの教育は当たり前になっている。その後、世の中で事件や事故が起きるたび、また政治的な力も働き、学校には交通安全教育、防犯教育、薬物乱用防止教育、租税教育、金銭教育、消費者教育、がん教育等、枚挙にいとまがないほどの課題が突きつけられている。教員には、通常の教科の学習内容に加えて、これらの課題についてもある程度の知識を持ち、児童・生徒に話題を提供し考えさせることのできる技量が求められている。

5 これからの時代に求められる教師像

(1) 資質として

教育職員養成審議会第1次答申の「いつの時代も求められる資質・能力」で挙げられている「教育者としての使命感」、「人間の成長・発達についての深い理解」、「幼児・児童・生徒に対する教育的愛情」などのほかに、これからの時代に教師に求められる人間性に関わる資質として次のようなものが考えられる。

① 鋭い人権感覚

いじめや体罰が大きな問題となっており、法整備が進められ、服務通達も繰り返されているが、一向に減少する気配がない。自分の言動はもちろん、子供や他の教員の言動に対しても、鋭い人権感覚をもって見ていくことが求められる。鋭い人権感覚を有しているということは、とりまなおさず人間の心情に対して深い洞察力を有しているということであり、一見無理難題に思えるようなことを言ってくる保護者や地域の方の心情を慮ることもでき、良好な人間関係を構築することにもつながると考えられる。

② 寛容性

教師が理想を持ち、「子供たちをこう育てたい」という気持ちを強く持つことは極めて大切なことであると考ええる。しかし、それが「こうあらねばならぬ」となり、「それ以外は許さない」となると、一人一人の子供の持ち味を生かして個性豊かに育てることはできない。教師に限らず、芸術やスポーツ等の面で、優れた指導者は弟子や選手のよさを認め、伸ばしている。グローバル化した現代社会では、型にはめるのではなく、型を破り新しいものを生み出す力が、求められている。確固たる教育理念を持つ一方で、ありのままを受け入れる度量の広さが必要である。

③ 誠実さ

教育とは、極めて労働集約性の高い営みである。教える方も教えられる方も、人がいなくては成り立たない。そこで重要なのは、何よりも信頼関係である。信頼していない人からは、何を教わっても身に付かないばかりか、反発したり言っている内容を疑ったりして、むしろ逆効果である。信頼関係を構築するためには、うそを言ったりごまかししたりしない誠実さが必要である。相手のために自分を犠牲にしてまで尽くすつもりで教える覚悟が必要である。将来、人工知能（AI）が授業を行うようになるのではないかといった報道があったが、知識の伝達だ

けならともかく豊かな人間性の涵養のためには、信頼関係の上に成り立った教育が不可欠である。

(2) 能力として

前述の国立教育政策研究所がまとめた「21世紀に求められる資質・能力」のうち、「基礎力」、「思考力」、「実践力」をキーワードとして考えていきたい。

① 「基礎力」を育てるために

思考力や実践力の基礎として、言語で表現されたものを的確に理解する力及び言語で適切に表現する力が必要である。また、これからの時代にあっては、ICTに関するリテラシーは必要不可欠である。このような時代を生きていく子供たちを育てるためには、教師にもこれらの力が求められている。

② 「思考力」を育てるために

子供たちの思考力を育てるためには、教師が適切な課題とその課題を解決するための適切な手段・方法を理解していることが必要である。やっても解決できないような課題やすぐに解決できるような課題は、子供たちの思考力を育てる上で意味をなさない。また、教師が知っている解決方法をすぐ示してしまうのも、子供たちの思考力を育てることにはならない。子供たちの学習状況をよく把握して、適切な機会に適切な助言を行うことが肝要である。

また、メタ認知の力を育てるために、子供たちの学習状況（思考の過程）をつぶさに観察し、客観的な立場から助言し、自己評価させることも重要である。

③ 「実践力」を育てるために

実践力とは、他者との良好な関係性を保ちながら持続可能な社会を作っていく力のことである。子供たちの自律性やコミュニケーション能力を育成する力が求められる。また、「相手は自分と違う人間なのだから、どれだけ察しようと努力しても、その気持ちや真意までは分からない」という前提に立った他者理解や異文化理解の力を育てることも必要である。

6 まとめ

時代や社会の要請を受けて、教師の仕事はますます多様化、複雑化している。昨今では、教師の多くが過労死レベルに達しているとも言われている。そのような中でも、次代を担う人材を育成する教師の仕事の重要性は、一層高まっていると考える。これからの時代に求められる教師の資質・能力を踏まえた上で、私たちは教員養成に当たらなければならない。

今回、国立教育政策研究所が示した「資質・能力」を基にこれからの時代に求められる教師像を考えてきたが、紙幅の都合で書き足りない面も多い。今後も引き続き探っていきたい。

参考文献

- (1) 国立教育政策研究所編「資質・能力 理論編」東洋館出版社、2016年
- (2) 中央教育審議会「これからの学校教育を担う教員の資質能力の向上について（答申）」2015年12月
- (3) 中央教育審議会「教職生活の全体を通じた教員の資質能力の総合的な向上方策について（答申）」2012年8月
- (4) 中央教育審議会「今後の教員養成・免許制度の在り方について（答申）」2006年7月
- (5) 文部科学大臣「今後の教員養成・免許制度の在り方について（諮問）」2004年10月
- (6) 教育職員養成審議会「養成と採用・研修との連携の円滑化について（答申）」1999年12月
- (7) 教育職員養成審議会「新たな時代に向けた教員養成の改善方策について（第1次答申）」1997年7月
- (8) 教育職員養成審議会「教員の資質能力の向上方策等について（答申）」1987年12月
- (9) 文部大臣「教員の資質能力の向上方策等について（諮問）」1986年5月
- (10) 臨時教育審議会「教育改革に関する第二次答申」1986年4月